

ユーザ事例

フォスター電機株式会社

新たな本社ビルへの移転を機にIT基盤を刷新し、コミュニケーションとワークスタイルの改革を促進

「音がある フォスターがいる」をスローガンに掲げ、音のスペシャリストとして高品質な音響製品の開発、製造を手掛けているフォスター電機。本社ビルの新築と移転を格好の機会と捉え、社内のコミュニケーションとワークスタイルの改革を進めています。IP電話システムや各種コミュニケーションツールだけでなく、基盤となるネットワーク自体も強化。その構築と運用保守を担うパートナーとして、豊富な実績を持つネットマークスが選ばれました。今後、IP電話の海外展開やWeb会議とテレビ会議システムの連携なども視野に入れつつ、社内の活用を促進していく予定です。

携帯電話の内線連携、固定席の廃止など ワークスタイル改革への取り組みを実施

社内のコミュニケーションを円滑に行えるようにすることは、意思決定のスピードを早め、日々の業務効率や市場における競争力を維持向上していく上で、企業にとって永遠の課題と言える。働きやすい環境を実現し、社員の満足度を高められれば、それはよりよいビジネス展開を生み出す下地となる。また、快適なワークスタイルの実現を支えるネットワークについても、十分なパフォーマンスと信頼性を保つことは不可欠であり、構築や保守を担うベンダーの力量も同時に問われることとなる。

フォスター電機は、本社ビルの新築と移転を機に、このコミュニケーションとワークスタイルの課題解決に取り組み、確かな成果をあげた。

「離席中の担当者とはスムーズにコミュニケーションできる環境を整えることは、大きな課題の1つでした」と、管理本部 副本部長の津金 磐輝氏は話す。

「本社にいる約600名の社員のうち、250名ほどが技術系です。製品の試作室や測定室、さまざまな打ち合わせなど、担当者は頻りに社内を移動しているの、連絡を取りたくても所在が分からず、なかなかコミュニケーションをとることができませんでした。そこで、内線通話に携帯電話を活用して、いつでもどこでもスムーズに連絡できるようにしたいと考えました」

また、営業部門の社員は社外に出ていることが多いことから、新しいオフィスでは全社員分の固定席を設けず、フリーアドレス制への移行についても検討課題だったという。従来の電話システムは非常に古く、移転の際には全く新しいもののヘリプレースすることを当初から決めており、ネットワーク全体も含めソリューションの選定が進められた。最終的に、同社はIP電話システムとしてシスコ ユニファイドコミュニケーションを、ネットワーク基盤のコアスイッチや無線LANアクセスポイントなどでもシスコ製品を採用。その提案と構築を担ったのがネットマークスである。

ネットマークスは、フォスター電機のシステム構築に以前から携わって

おり、その技術力を評価されていた。また、中国や東南アジアを始めとする海外においても、優れた対応力を発揮して、高い信頼を得ていた。管理本部 MIS 業務改革課 主任の藤山秀一氏は、「ネットマークスには、国内、海外を問わず、TANDBERG、Steelhead、NetScreenなどの導入実績がありました。その実績を評価したことが、採用の大きな理由です」と語る。

「当社はアジア圏だけでも多くのグループ企業があり、工場などの拠点も設けています。ネットマークスは、各国の現地法人とシームレスに連携して、スピーディかつ高品質な対応を実現していました。この信頼と安心感は代え難く、また全体を包括的に捉えて対応してもらえることも強みだと思ったのです」

システムの提案内容もフォスター電機の要望を的確に捉えたもので、「当社のニーズに合致する内容でした」と藤山氏は語る。

「携帯電話と固定電話の連携を、シスコ ユニファイドコミュニケーションに標準で備わるモバイルコネク機能で実現することをはじめ、初期コストを抑えつつ、確実に要件を満たす提案をいただけました。シスコソリューションはもとよりネットワーク全般の技術力、対応力が高いネットマークスに任せてよかったと思っています」

社員の意識調査に基づいた最適な計画を立案し スケジュール通りスムーズに移転作業を完了

フォスター電機では、移転前の2011年から社内のコミュニケーションやオフィス環境に関するアンケート調査を行い、課題やニーズを把握してきた。ネットマークスはこの段階からプロジェクトに参画し、各種調査の結果と部署ごとの業務形態の分析を踏まえて最適な電話システムの計画を立案。「我々の不得手などところを的確にフォローしていただきました」と藤山氏は話す。

「社内の調査は、1年ほどかかったと思います。IP電話の導入は初めてで、社内では情報やノウハウが不足していたのですが、ネットマークスはこれまでの豊富な経験を活かした丁寧な対応で、とても助かりました」



フォスター電機株式会社
管理本部
副本部長
津金 磐輝 氏



フォスター電機株式会社
管理本部
MIS 業務改革課
主任
藤山 秀一 氏



フォスター電機株式会社
管理本部
MIS 業務改革課
主任
佐古 洋一郎 氏

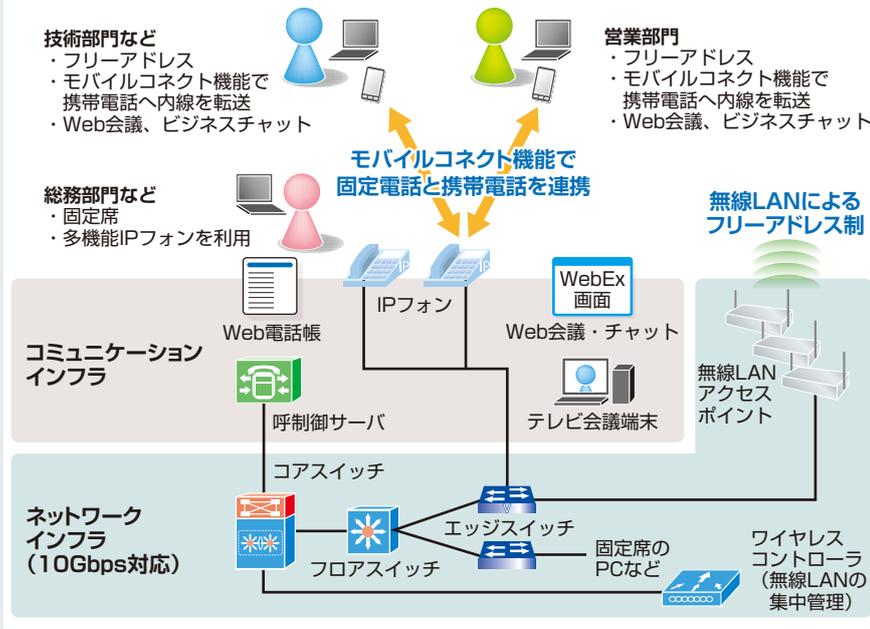
ユーザ企業紹介

FOSTER®

<http://www.foster.co.jp/>

1949年(昭和24年)、信濃音響研究所として設立し、スピーカーの製造を開始。以降、現在に至るまで、市場の変化を的確に捉え、さまざまなニーズに応えるサウンド・スペシャリストとして高品質な音響製品や電子製品の開発製造、OEM供給を続けてきた。多くの経験と蓄積されたノウハウをバックボーンとし、独創的なアナログ技術による人間と機器との最良のインターフェイスを追求。「音がある フォスターがいる」のスローガンの下、音に関するあらゆる分野で革新的な取り組みを続けている。グローバルな事業展開も積極的に行っており、アジア、北米、欧州に多数のグループ企業を有する。





総務部門などは固定電話中心、移動が多い社員は固定電話と携帯電話の内線連携、営業部門は携帯電話中心と、それぞれの業務に適した割り振りを決定。また、技術部門や営業部門は固定席を排してフリーアドレス制にすることも決定した。社内でのモバイル運用に対応すべく、デスクトップPCからノートPCへの切り替えも併せて実施している。

実際のシステム構築は、新しい本社ビルが竣工した2012年10月から移転を実施した同年11月までの数週間で行われた。急ピッチの作業となったが、トラブルは一切なく、業務に支障を来すこともなかったという。

管理本部 MIS 業務改革課 主任の佐古洋一郎氏は、「期待通りの動きでした」と話す。

「サーバ機器を物理的に動かすこともあり、システムを止めるタイミングなど入念に見計らって対応しました。ネットワーク関係のほか、複数の業者が関わっていたので、スケジュール調整は少し大変でしたが、予定通り完了する事ができました」

津金氏は、今回の移転を「完璧でした」と高く評価している。

「実質的に2週間くらいしかなかったのですが、ネットマークスの対応はすばらしく、さまざまな場面で尽力いただきました。本社の移転は43年ぶり、初めてに近い状況でしたが、スケジュールも完璧で、大成功と言っていいでしょう」

社内のコミュニケーションは確実に改善 運用保守の負担も抑えてメリットを実感

現在のシステム構成は、図に示す通り。基盤となるネットワークは、コアスイッチにCisco Catalyst 6500シリーズを採用。無線LANは、各フロアのCisco Aironet 1140アクセスポイント、Cisco WLCワイヤレスコントローラで集中管理する構成としている。

コミュニケーション関係では、シスコ ユニファイドコミュニケーションとして呼制御サーバのCisco Unified Communications Managerを導入。連絡先の検索、一元管理を担うフォンアプリのCollaboration Directory (Web電話帳) や、Web会議ツールのCisco WebExなどを組み合わせた。固定電話機はCisco Unified IP Phone 6900シリーズが多くを占めている。

モバイルコネクト機能で内線連携を行う携帯電話は、300台ほど追加導入しており、課長職以上にはiPhoneを配布した。運用台数は従来の2倍以上に増えたが、キャリアを統一することで通信コストは大幅に抑えている。「以前と変わらないレベルを維持している」(津金氏)と

のこと。

社内の承認プロセスなどを携帯電話から行えるシステムも新たに実装し、コミュニケーション以外の面でも業務効率を高める取り組みを行っている。

新しいオフィスに対する社員の満足度は高く、移転前に課題となっていた離席中の社員とのコミュニケーションもスムーズに行えるようになったと津金氏は話す。

「移転後に改めて社員にアンケートを行ったところ、ほぼすべての項目で以前よりも改善されたという回答が寄せられています。IP電話やWeb電話帳は、積極的に使う人と、転送など操作に戸惑いを感じている人に分かれていますね。WebExの導入で、自席からもWeb会議が行えるようになりましたが、こちらも同様の傾向です」

WebExのチャット機能は利用者が着実に増えており、全体として社内のコミュニケーション密度は高まっているとの評価が出ている。また、佐古氏は「今回導入したIP電話機は、グレードは高くないものの、最大8人までの電話会議が可能です。これまでできなかったことが簡単にできるようになったのは大きいでしょう」と補足する。

システム面では、ネットワークと電話システムが統合され、「これまで別々に構築してきた回線類が統一され、ケーブルもシンプルになりました。地味ながら大きなメリットです」と佐古氏は話す。今回フォスター電機は、ネットマークスのユニファイドコミュニケーション運用支援サービスも利用して、保守などをすべて任せている。

「運用保守は、いわゆるヘルプデスク的な対応を含め、基本的に全部お任せしています。社内でもまだ使いこなせていない機能も多いので、WebExやテレビ会議システムとの連携を含め、活用を幅を広げられる提案とサポートをワンセットでお願いできると、なおうれしいですね」

海外拠点とのIP電話網構築などを検討中 新たなツール、基盤のさらなる活用を目指す

今後、IP電話システムの海外展開や、WebExとテレビ会議システムの連携などを進めていきたいと考えている。「より使いやすく、メリットを感じられる環境を整えていきたい」と藤山氏は話す。

「今は海外拠点とのネットワーク(WAN)に音声は載せていませんが、出張中でも気軽に連絡を取り合えたり、通信費を削減できたりとメリットがあるので、ぜひ実現したいところです」

佐古氏も、今後のさらなる展開に積極的な姿勢を見せる。「ネットワーク、IP電話(コミュニケーション)とも、今回の移転でベースは構築できたので、これからの展開がしやすくなりました。新しい技術をキャッチしながら、活用の方向性を見出していききたいですね」

「会社として、今回のプロジェクトは満足しており、狙ったところに落ち着いたと評価しています」と津金氏は話し、次のように続ける。

「コミュニケーションツールについては、ユーザの立場から、さらに改善の要望も出てきています。できることからどんどん改善して働きやすい環境を整え、ワークスタイルの改革を続けていくことが新たな目標です」

● 問い合わせ先



ユニアドテックス株式会社

UNIDEX

<http://www.uniadex.co.jp/>

〒135-8560

東京都江東区豊洲1-1-1 Tel:03-5546-4900

※記載の会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

※自治体・企業・人物名は、取材制作時のものです。